



大豊作、南小!

学校が再開した6月にさつまいもの苗植えを行いました。例年より遅れた苗植えでうまく育つか心配しましたが、5カ月後には予想をはるかに超える量を収穫できました。86人の児童も大喜びでした。

さつまいも生育の成功には、定植が浅すぎた苗を植え直したり、水や肥料を与えたり、草を刈ったりと、見えないところでお世話になった地域の皆さんの協力があります。児童も職員も体験活動の成功に協力いただいた地域の皆さんに大変感謝しています。



立派なおいもの収穫に感嘆する児童

短歌会

夕暮れにふらふらと黄蝶来てわが門燈のぐるり漂ふ
 三キロのハクサイ並べて半分は切りて出荷す直売店に
 紅葉して自ずと散りゆく木葉なり木々は静かに春待ちて立つ
 胃カメラを通され耐えるわが肩に看護の手あり心と和めり
 枝先に膨らむ芽をもつ桜木の一枝拾いて歩き始めぬ
 木々の葉が静かに枝を離れては風に舞い散る午後後の光に
 ひんやりと体をつつむ朝の大気あ極北から吹いてきたのか

松本 東亜
 馬場 礼子
 中村トシエ
 中村 正市
 佐藤せい子
 梅田 國雄
 有久 賢治

菊陽句会報

きくよう文芸

里宮の神事ゆるりと七五三
 二重の峠トンネル過ぐや冬うらら
 秋澄みぬ阿蘇山並みの照り陰り
 一雨に一色重ね庭紅葉
 色鳥の赤き実つく至近距離
 冬田打つ過去の農具に犁とまが
 白萩の思い出深き過去のこと
 松茸を土産に買ふも旅ならむ
 遊び場の苅田群がる村雀

田島 三間
 宮川ユキエ
 紫藤 祥子
 曾我 育代
 曾我トモ子
 緒方チエ子
 米山るみ子
 吉田 幸子
 木村 信子

あのことはもう御破算よ銀杏散る
 結果待ちコロナ陰性小春の日
 独り居のテレビ相手や冬来たたる
 清正公の今も残りし櫛紅葉
 毛糸編む大事な友へのプレゼント
 凜として生命育む石路あかり
 をさな児や銀漢蹴りて寝返りす
 噴煙の今日は素直や秋桜

財津 早雪
 原野レイ子
 寺尾千代子
 高橋 孝子
 福田 貴子
 田中 郁子
 北川しんじ
 佐藤 澄世

人権啓発標語 「だいじょうぶ? そういう言葉 うれしいな」

武蔵ヶ丘北小学校 4年 駒澤 莉乃

「三年間で変わった自分」



町人権子ども集会で司会をする中原さん

私は様々な教材を使い、人権について多くのことを学びました。その中でも一番心に残った学習は、ハンセン病学習と「43項目の質問状」です。ハンセン病学習ではうわさを信じるのではなく、自分から知ろうとすることの大切さを学びました。菊池恵楓園の入所者がホテルの宿泊を拒否されたこと、ハンセン病患者と家族が引き離されてしまうことはハンセン病がうつる病気と決めつけていたことから起こったことだと思います。もし、私の身の周りにこのような出来事があったとき、ハンセン病学習をする前までは、うつる病気だと決めつけおかしさに気づくことができなかつたと思います。けれど今はハンセン病の学習をしたからこそ、正しい知識を周りに伝え、差別に苦しんでいる人に寄りそうことができると思います。

「43項目の質問状」ではおかしさに気づき行動していくことの大切さを学びました。栄次(「43項目の質問状」の登場人物)が就職試験に落ちた時、クラスのみんなが栄次のために会社に対して質問状を出そうとしたところが特に印象に残っています。一人のなかま

菊陽中学校 3年 中原 望晶

のためにクラス全員が団結して行動できたのは、学級で進路公開を行ったからだと思います。私たちの学級でも進路公開が行われます。クラスの一人一人がこれまでどう歩んできたのか、何を考え、これからどうしていくのか真剣に語っていきます。この他にも、一年生では「アンニョンハシムニカチョンスングンです」や西光万吉さんのことを、二年生では来民開拓団の真相や平和について学んできました。人権学習のおかげで私は周りの目を気にせず自分の思ったことを伝えられるようになったと思います。

また、私は人権委員長として、学校全体に目を向けるようにしたら過ごしやすい学校になるかを考えアンケートや帰りの会参観を行ってきました。私自身人権委員長になって身の周りに目を向け元気のない人や困っている人に気づき「大丈夫?」などの声かけができるようになりました。

これから私は、三年間の人権学習で学んだことを忘れずに、身の周りで苦しんでいる人がいたらその人を救えるような人になりたいです。そのために、自分の思いを相手を傷つけないように伝えられるようになることが大切なことだと思います。この先色々な人と出会うと思います。その時に、相手のことを知ろうとする姿勢を大切に誰かの心の支えになりたいです。

新型コロナウイルス感染症をめぐる「不安や差別に対抗するために」
 ~ハンセン病問題・水俣病問題の教訓を~



「新型コロナウイルス感染症と人権」の学習が三里木女性の会の研修で行われました

日本赤十字社から「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」という資料が発行されています。新型コロナウイルス感染症のもつ「3つの顔」というのはどんな顔か? 第1の感染症の顔は「病気そのもの」で「身体」への感染になります。第2の感染症の顔は「不安と恐れ」です。「心」への感染です。そして、第3の感染症の顔は「嫌悪・偏見・差別」で「社会」への感染です。この3つの感染症はつながっています。①未知な部分が多いウイルスのため不安が生まれ→②不安が増殖すると不安解消行動が起り、自己防衛本能のスイッチが入り脅威を排除して遠ざける。→③差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診せず、病気を拡散を招くことになります。

第1の感染「病気」にかからないように「手洗い」「マスク着用」「三密を避ける」行動を一人一人が行う。第2の感染症に振りまわされないために自分を見つめる。(いつもの自分と違うところはないか、自分の健康に必要なことを見極め選択する。) 第3の感染症を防ぐために「確かな情報」を拡大、差別的な言動に同調しない。ウイルスは病気を引き起こすものですが、恐れから生まれる差別の問題を重視しないとけません。県外でも、県内でも新型コロナウイルス感染症により人権侵害が起こっています。熊本県には、不安や恐れ、それを助長し同調する中で人権侵害を起こしたハンセン病問題や水俣病問題を通じた教訓があります。忘れてはいけないことです。病気に闘っている医療従事者・治療を受けている人、社会生活をささえている人、その家族の方、幼き子どもたち、リスクの高い高齢者等それぞれの場所で感染と向き合い頑張っておられます。「他者への想像力」をもち、「教訓」を忘れず、「不安や差別」に対抗していきたいです。